

ヤングケアラーの実態に関するアンケート調査結果

○調査の目的

福井県内におけるヤングケアラーの実態を把握し、支援に向けた対策を検討する。

○調査の対象

1. 中学2年生	対象人数7,063人 (回収数753人)	回答率10.7% (全国調査: 5.6%)
2. 全日制高校2年生	対象人数6,603人 (回収数793人)	回答率12.0% (全国調査:10.9%)
3. 定時制高校2年生	対象人数 180人 (回収数 82人)	回答率45.6% (全国調査:不明)

○調査の方法

学校において、調査依頼文を配布。生徒は、依頼文に記載されたQRコードから、Webにより回答（任意）

○調査期間

令和3年9月15日～10月20日

○調査におけるヤングケアラーの定義

「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」をいう。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもなどの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



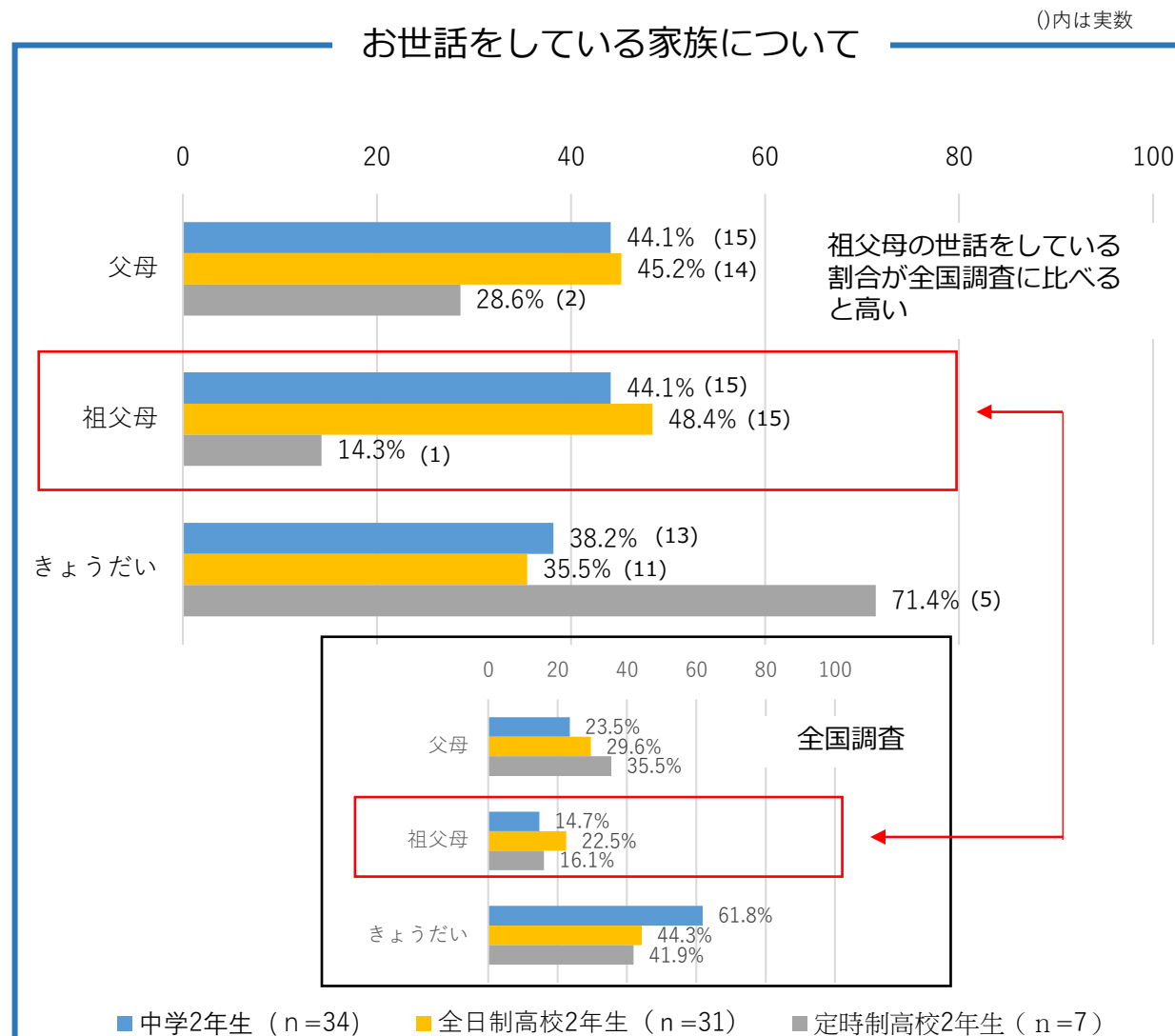
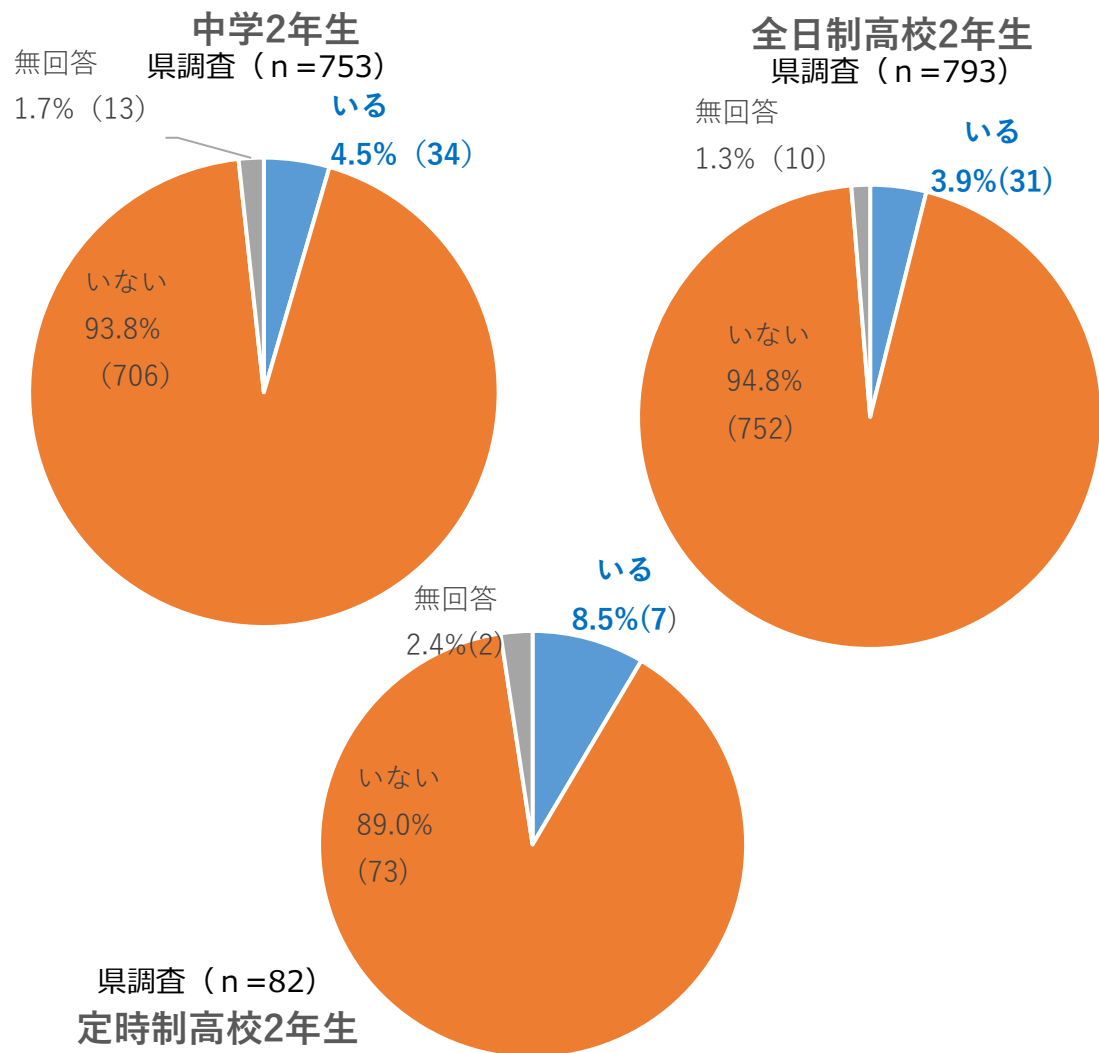
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

目 次

家族の中でお世話をしている人がいる割合・お世話をしている家族	1
世話を必要とする家族の状況	2
世話の頻度（まとめ）	3
世話の頻度（日数）	4
世話の頻度（時間）	5
世話の内容	6
世話を一緒にしている人	7
世話を始めた年齢	8
家族の世話をしているためできないこと・世話のきつさ	9
家族の世話に関する相談について（相談の経験）	10
悩みや困りごとの相談相手について	11
家族の世話の有無による学校の出席状況等	12
世話をしている家族がいる生徒が学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援	13
ヤングケアラーの自覚	14
ヤングケアラーの認知度	15
ヤングケアラーについて知ったきっかけ	16
ヤングケアラーにあてはまると回答した生徒が学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援	17

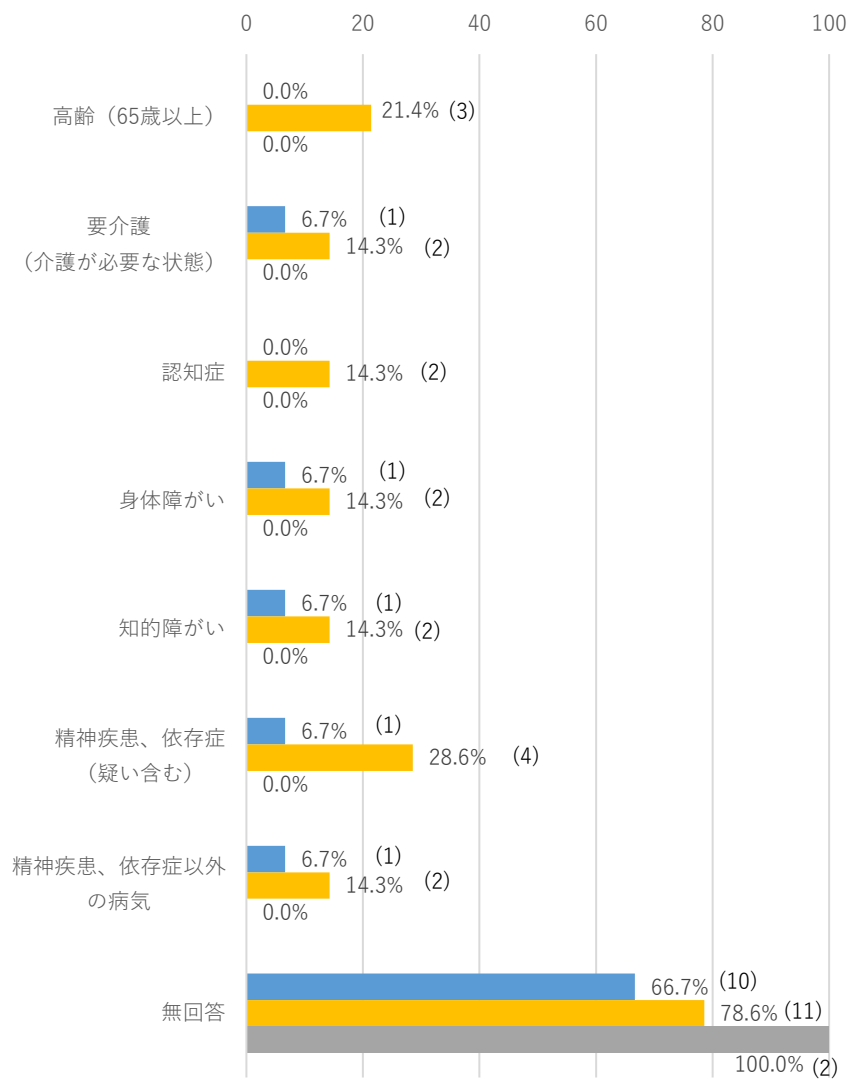
家族の中でお世話をしている人がいる割合・お世話をしている家族

- 世話をしている家族が「いる」と回答したのは中学2年生で4.5%（全国調査5.7%）、全日制高校2年生で3.9%（全国調査4.1%）、定時制高校2年生で8.5%（全国調査8.5%）と全国調査より低い傾向。



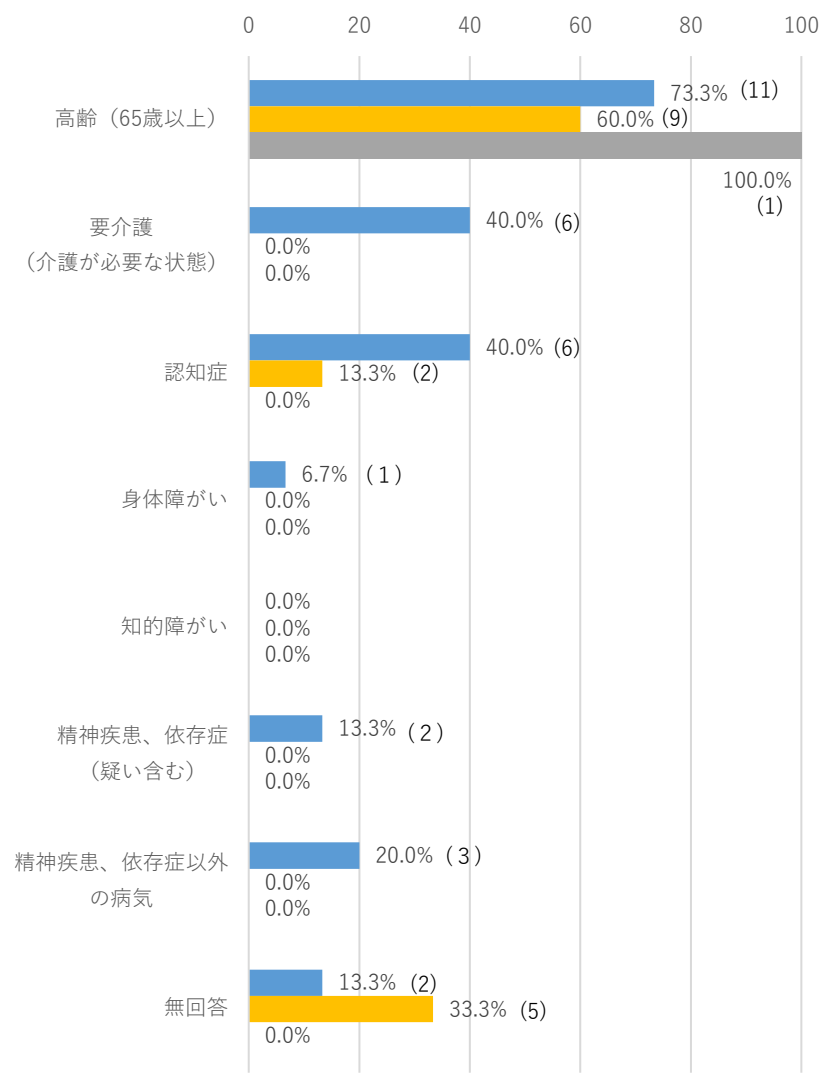
世話を必要とする家族の状況

父母



■ 中学2年生 (n=15) ■ 全日制高校2年生 (n=14) ■ 定時制高校2年生 (n=2)

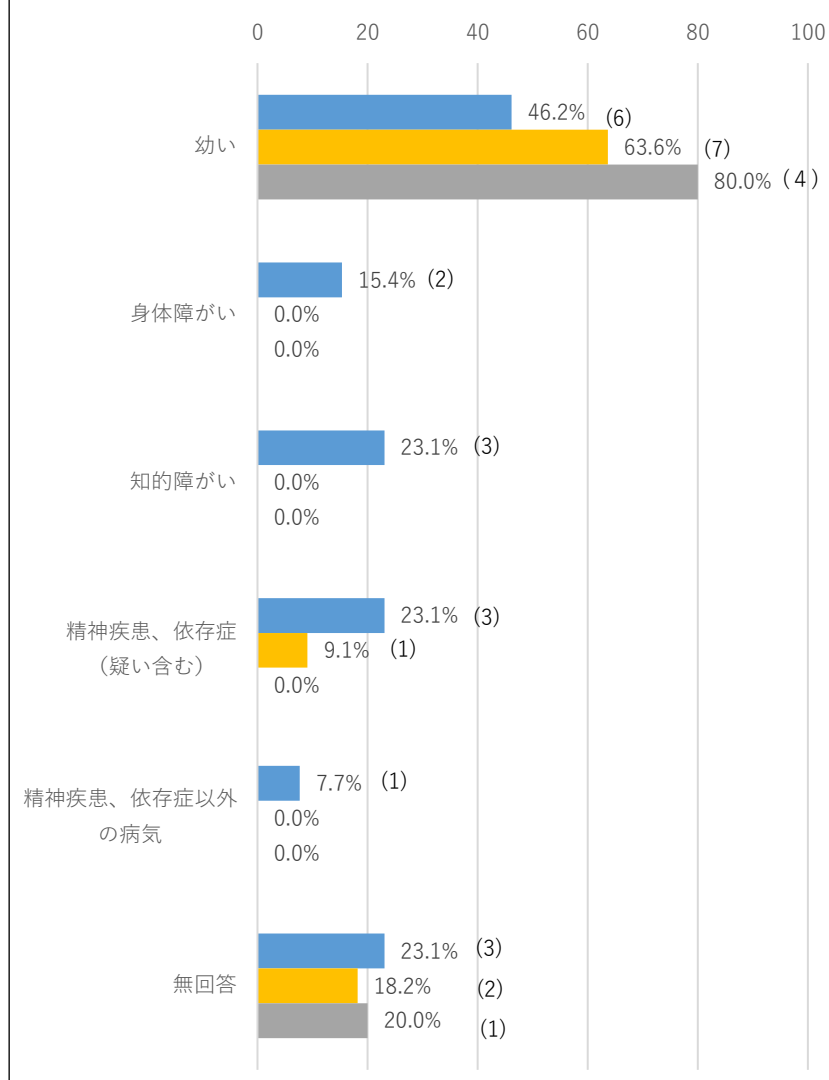
祖父母



■ 中学2年生 (n=15) ■ 全日制高校2年生 (n=15) ■ 定時制高校2年生 (n=1)

きょうだい

()内は実数



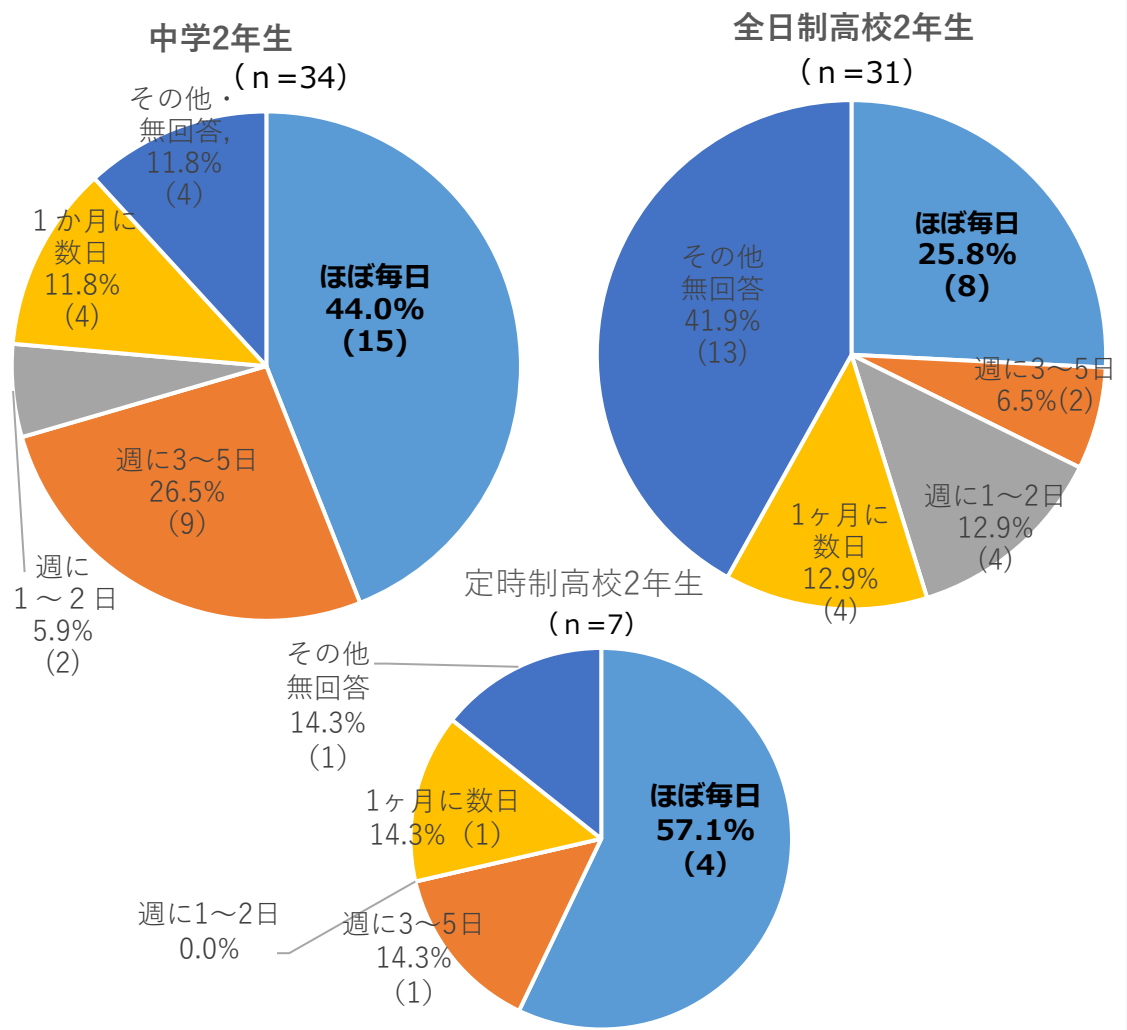
■ 中学2年生 (n=13) ■ 全日制高校2年生 (n=11) ■ 定時制高校2年生 (n=5)

世話の頻度（まとめ）

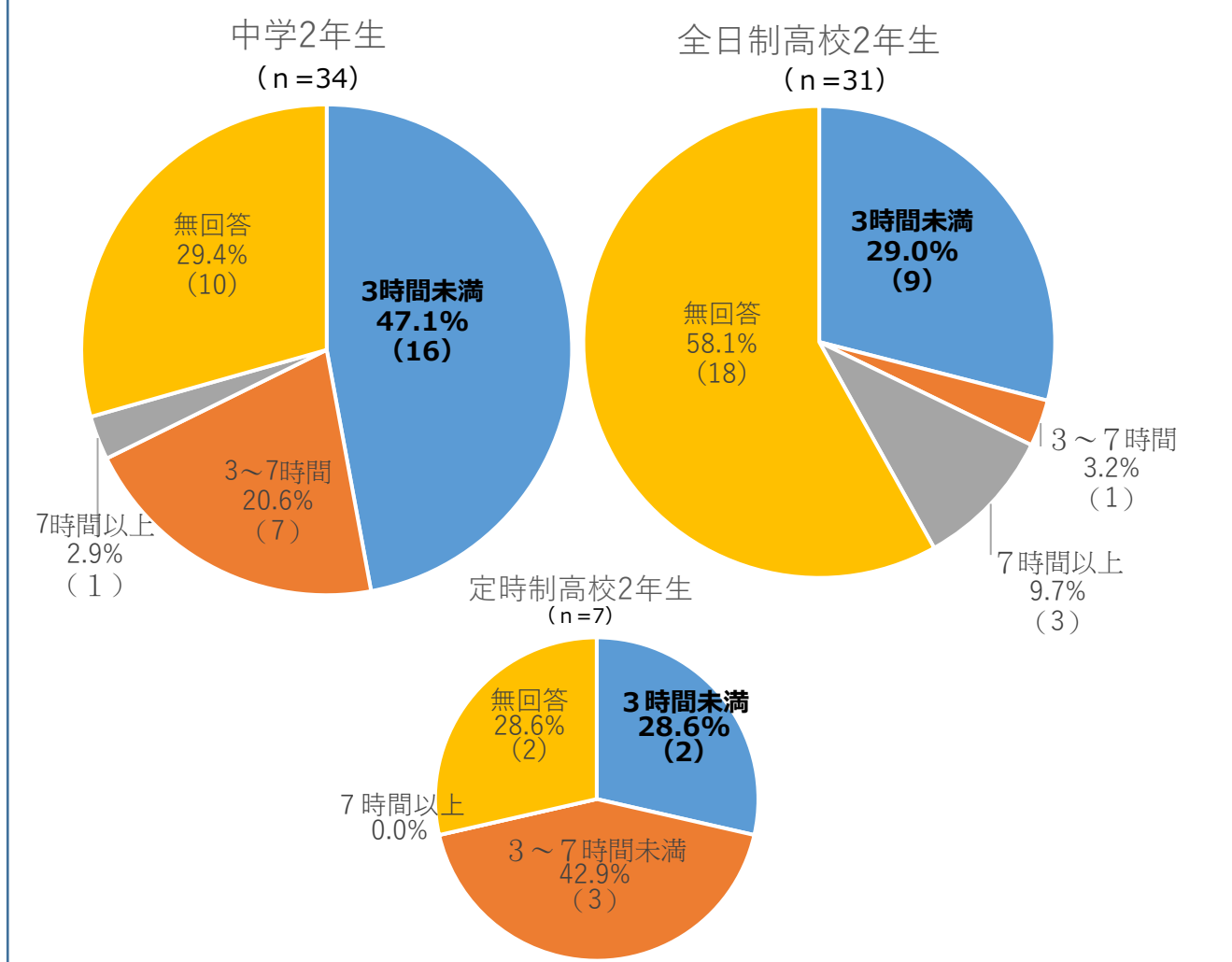
- いずれの学校種においても「ほぼ毎日」が最も高い。
- 世話をしている時間（平日1日平均）は、3時間未満が最も高い。

()内は実数

世話をしている頻度



世話をしている時間

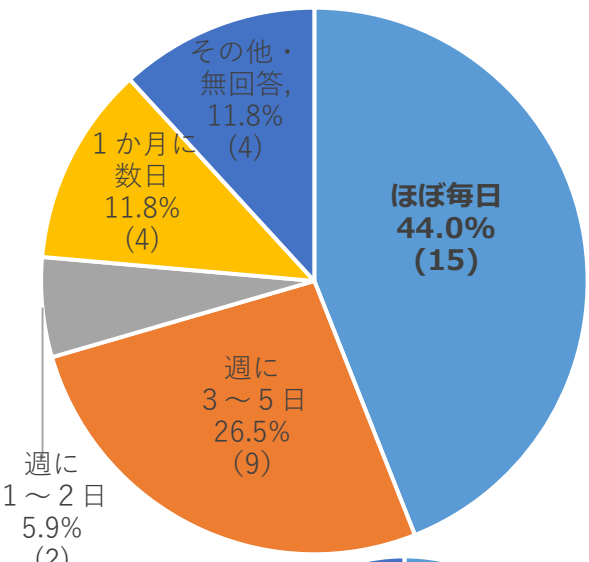


世話の頻度（日数）

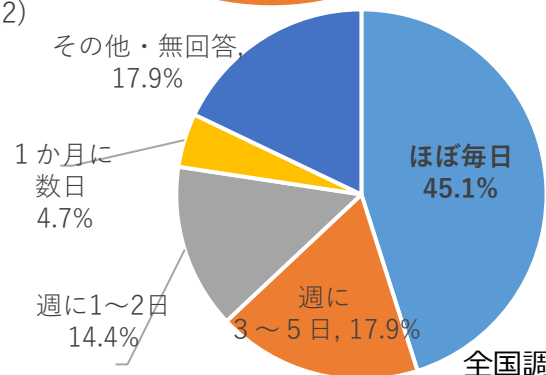
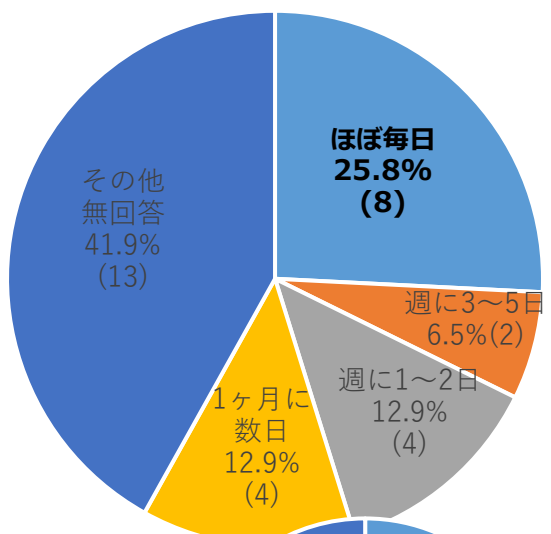
- いずれの学校種においても全国調査と同様、「ほぼ毎日」が最も高い。
- 祖父母、きょうだいの世話について「ほぼ毎日」が高い。

世話をしている頻度

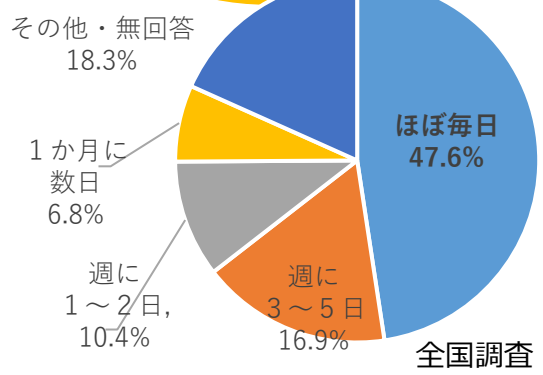
中学2年生
(n=34)



全日制高校2年生
(n=31)



全国調査

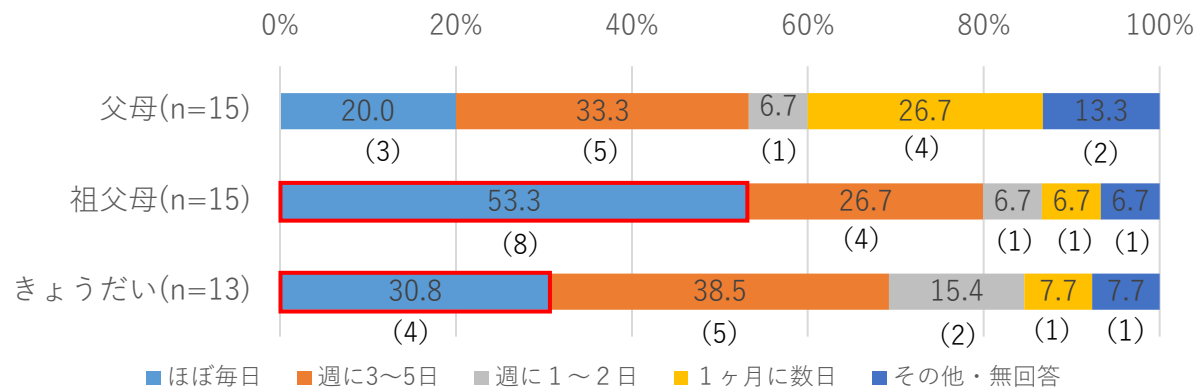


全国調査

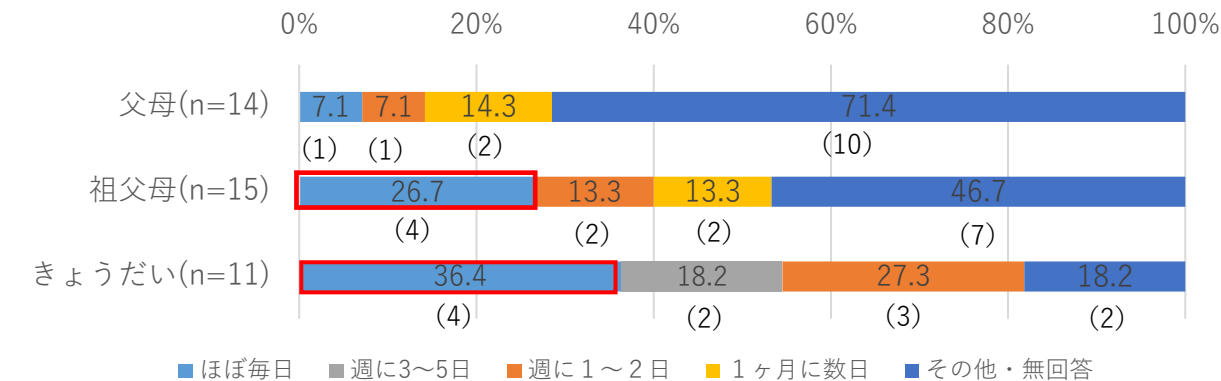
世話をしている家族別の世話をしている頻度

()内は実数

中学2年生



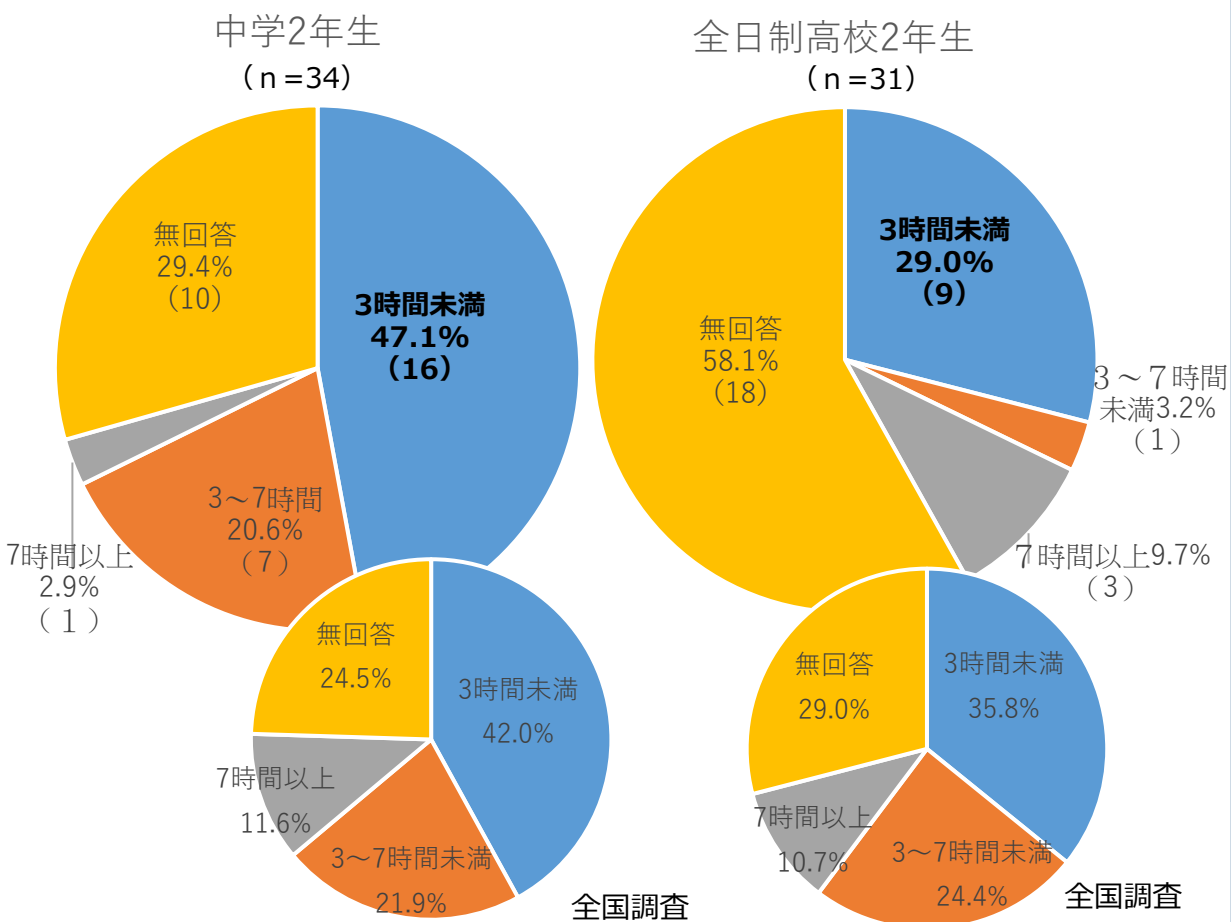
全日制高校2年生



世話の頻度（時間）

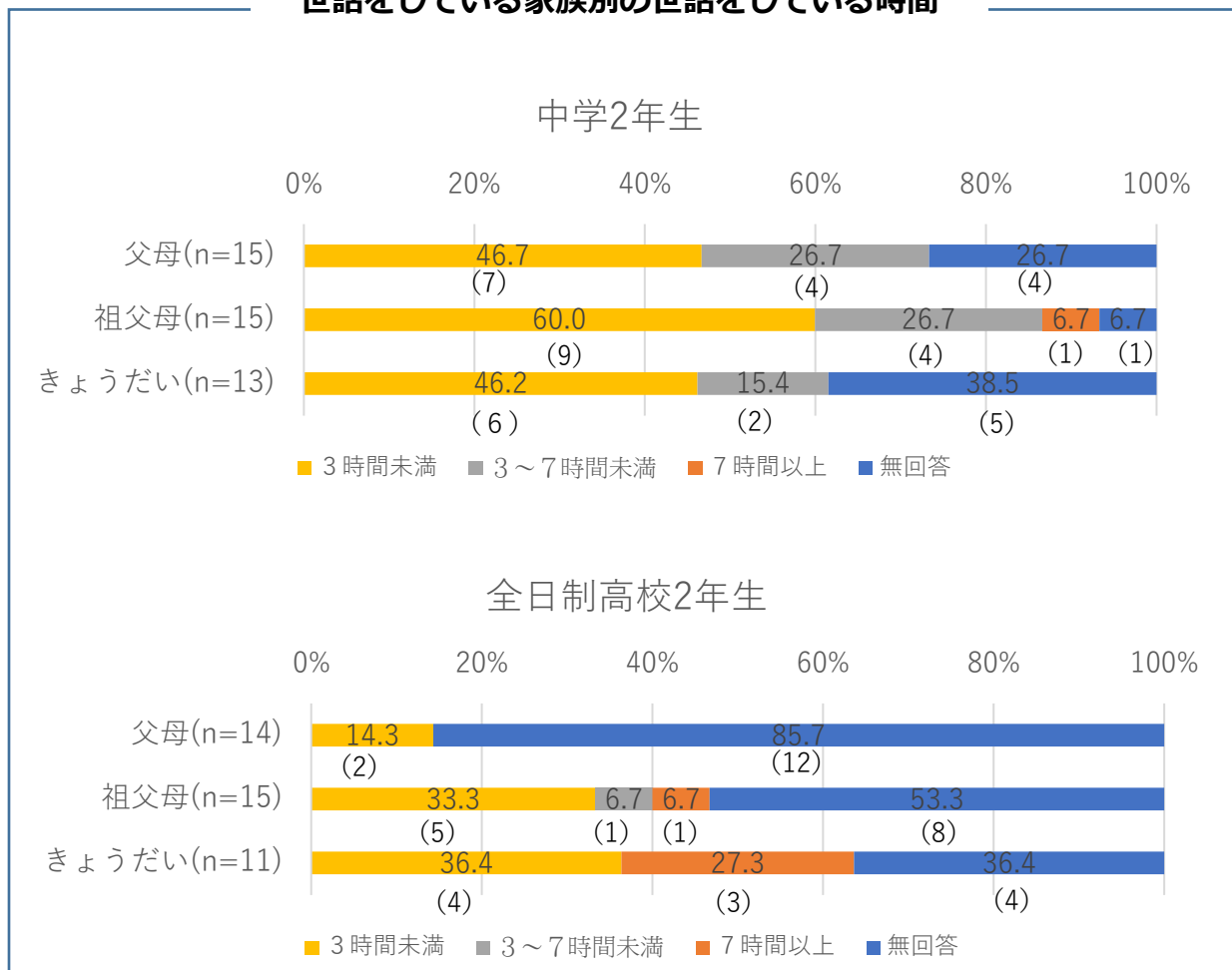
- 学校種に関わらず、全国調査と同様、3時間未満が高い。
- 学校種別平均は、中学生は2.0時間（全国調査 4.0時間）、全日制高校生は、3.2時間（全国調査 3.8時間）と全国調査と比べて短くなっている。

世話をしている時間



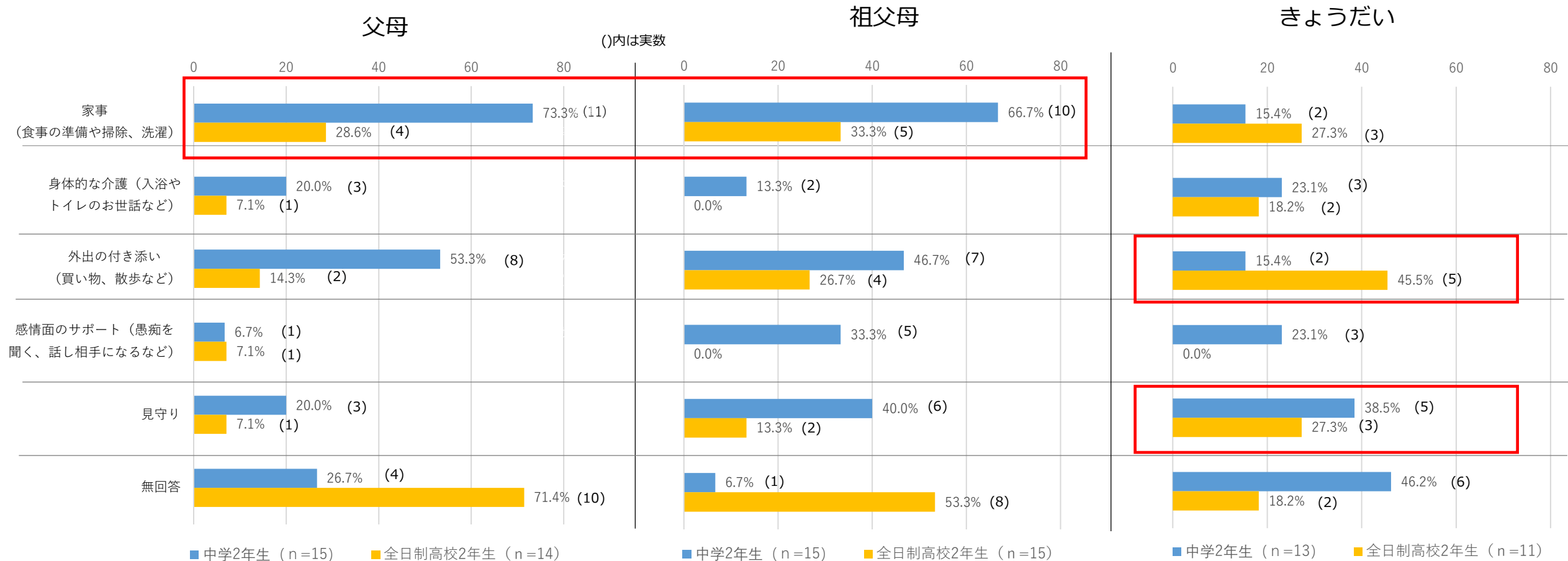
世話をしている家族別の世話をしている時間

()内は実数



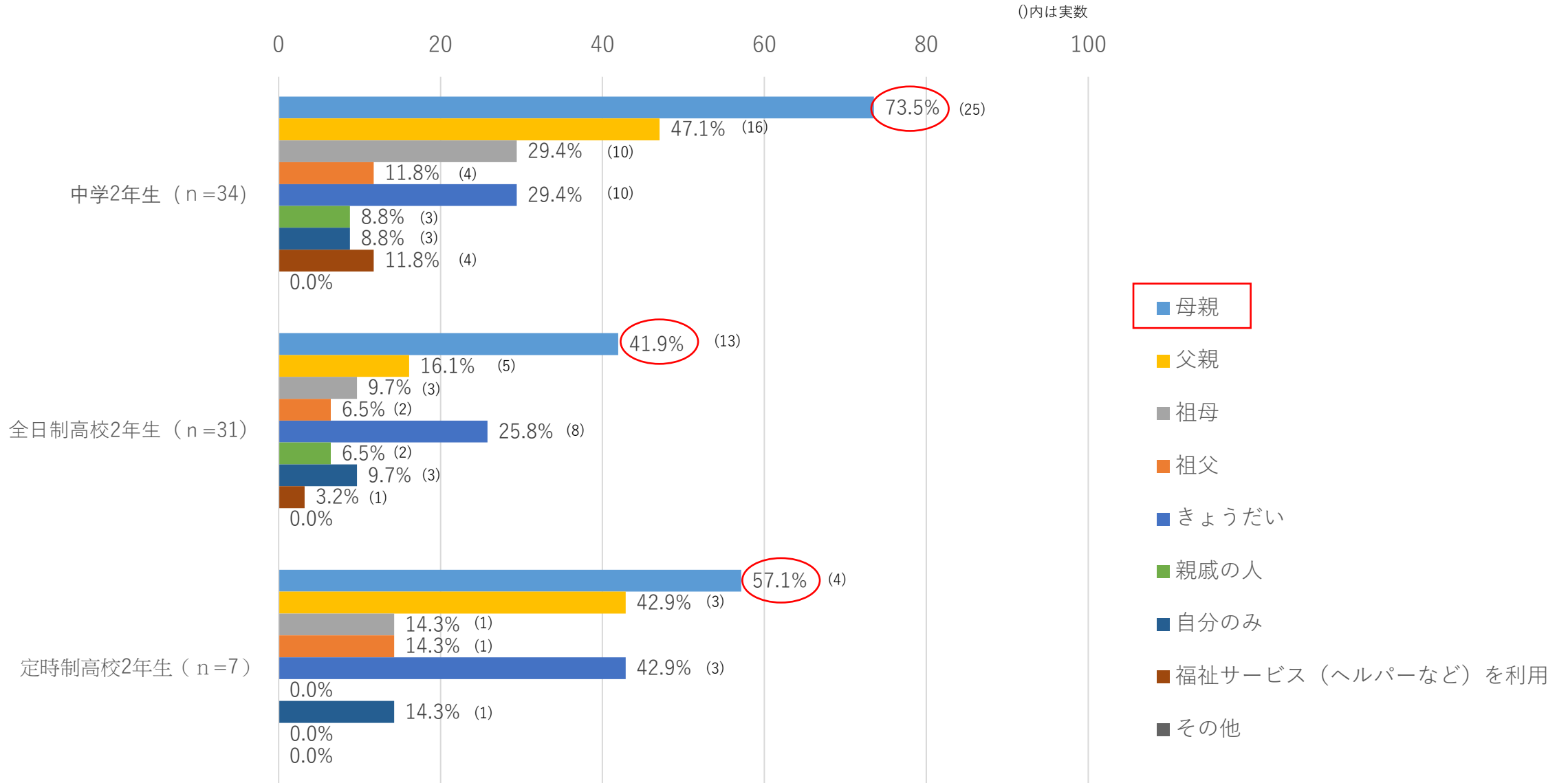
- 父母や祖父母については、「家事」、きょうだいについては、「外出の付き添い」や「見守り」が高い。

()内は実数



世話を一緒にしている人

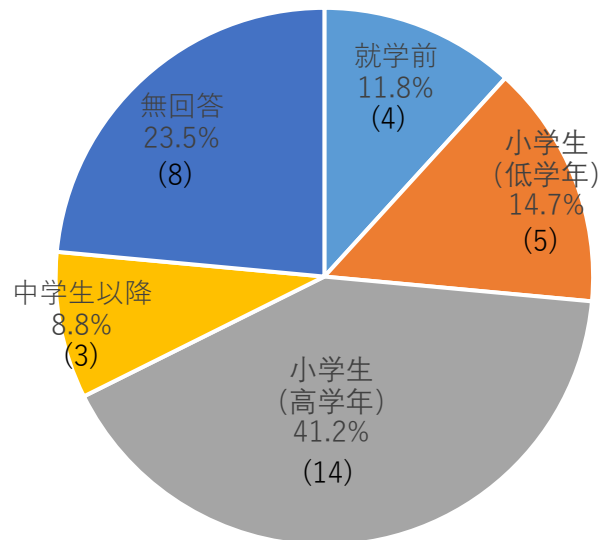
- どの学校種でも「母親」が高い。



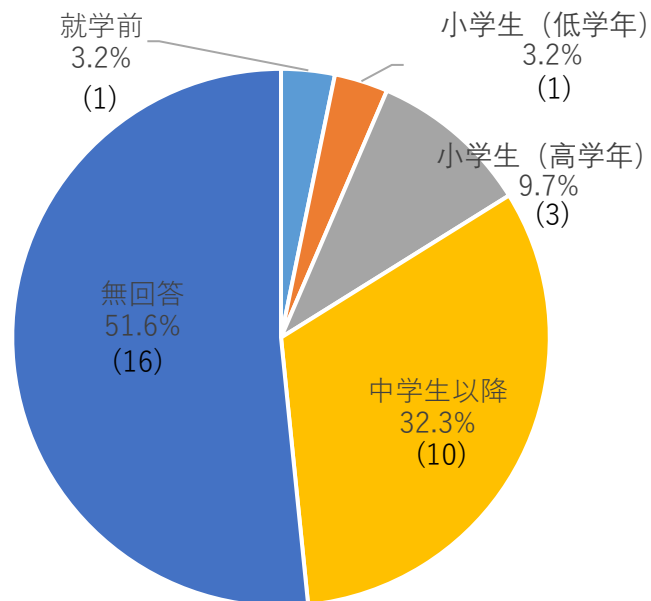
世話を始めた年齢

- 世話を始めた学年は中学生は小学生（高学年）、全日制高校生・定時制高校生は中学生以降が高い。

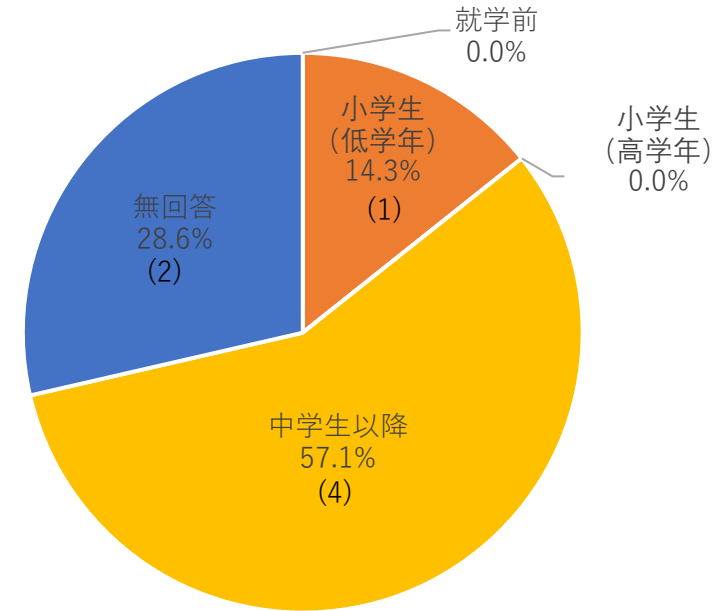
中学2年生 (n=34)



全日制高校2年生 (n=31)



定時制高校2年生 (n=7)

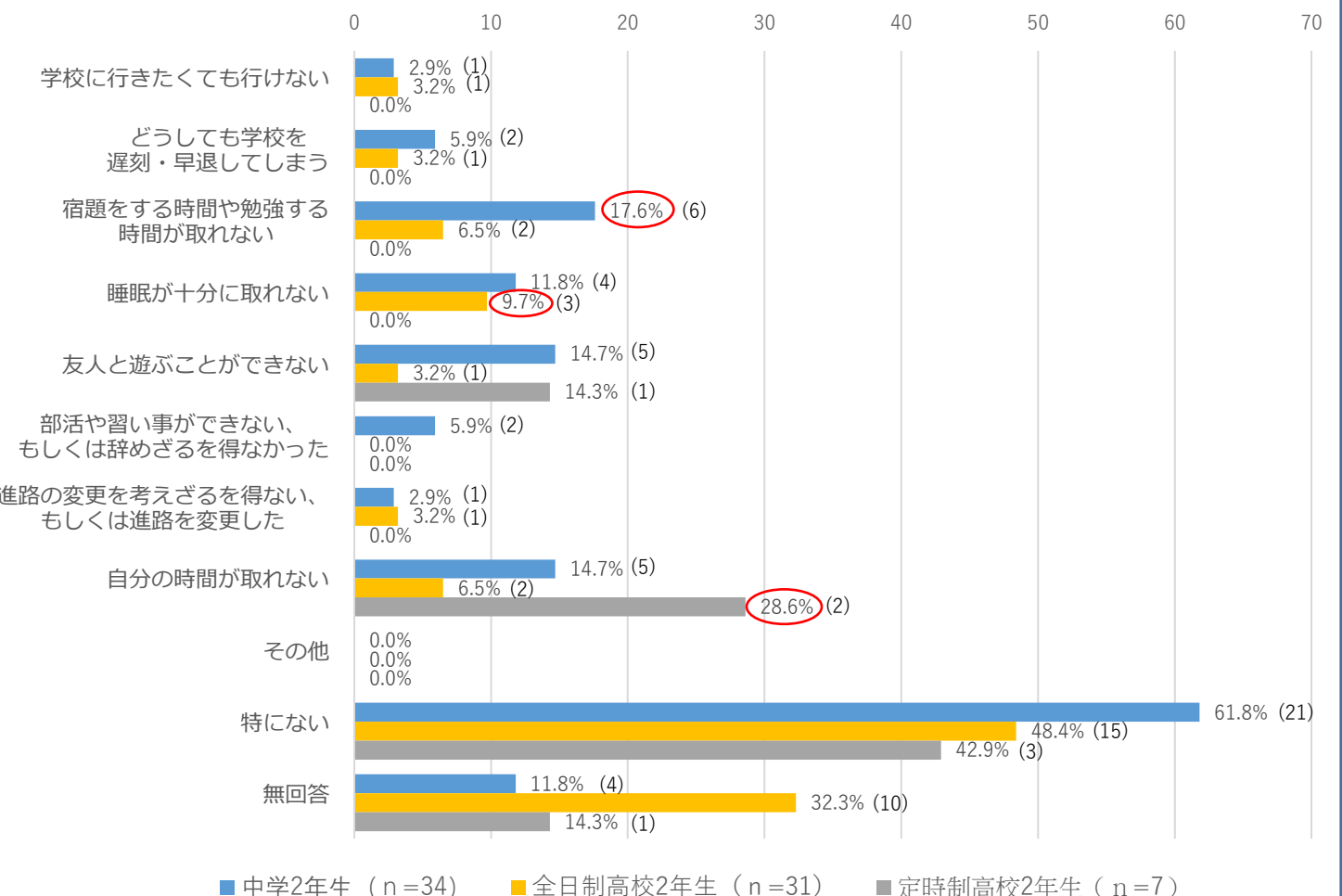


家族の世話をしているためできないこと・世話のきつさ

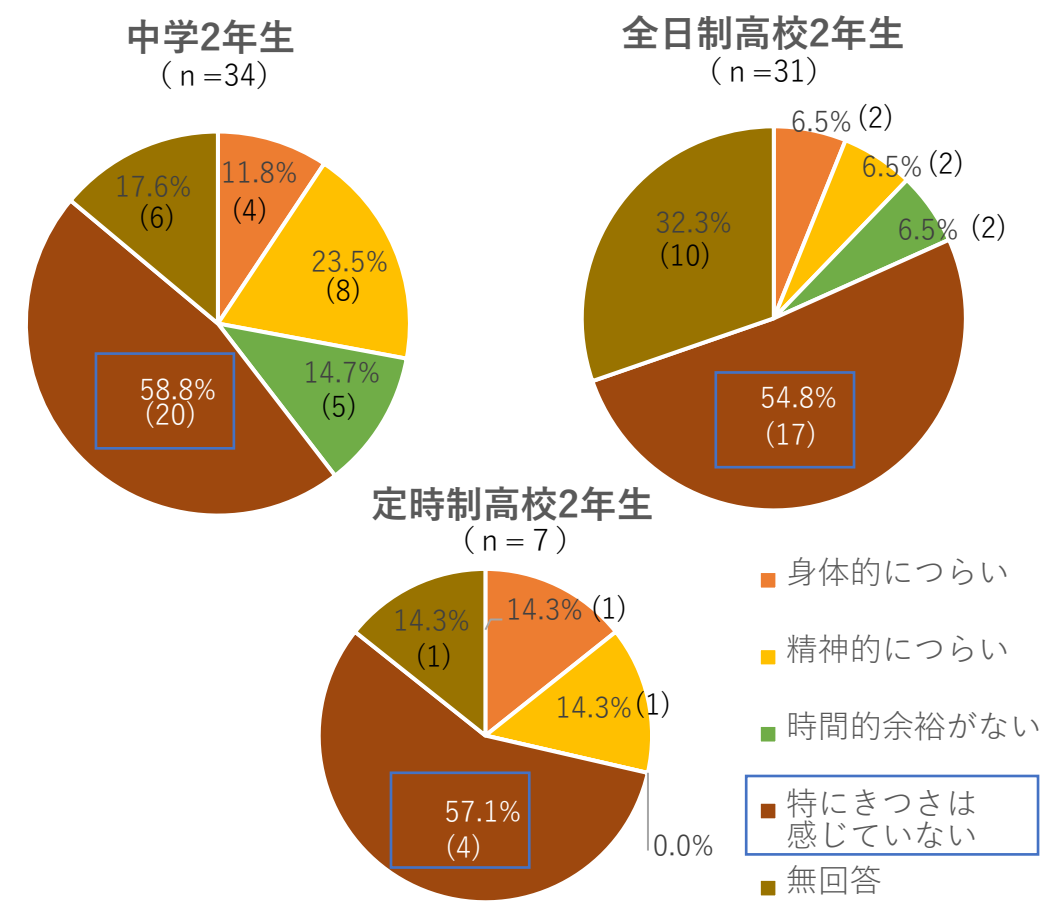
- いずれの学校種でも「特にない」が最も高い。その他では中学生は「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、全日制高校生は「睡眠が十分に取れない」、定時制高校生は「自分の時間が取れない」が高い。
- 世話をすることについて感じているきつさは、いずれの学校種でも「特にきつさは感じていない」が最も高い。

家族の世話をしているためできないこと

()内は実数



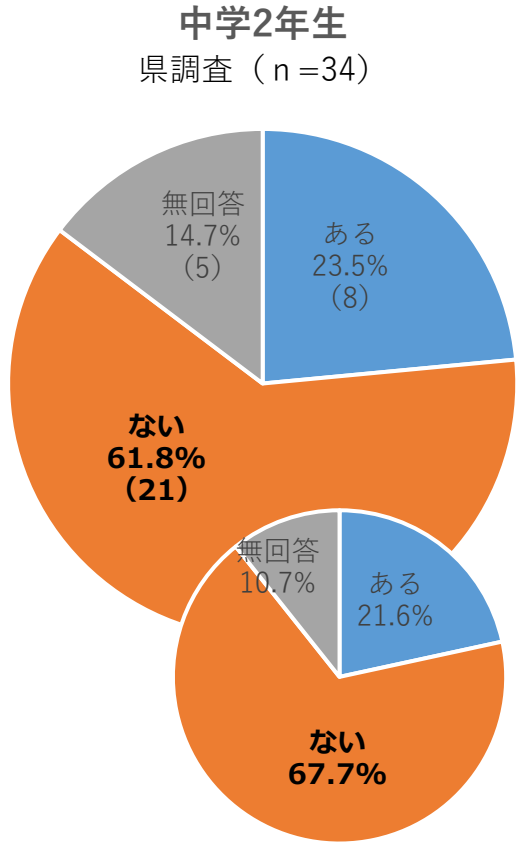
世話のきつさ



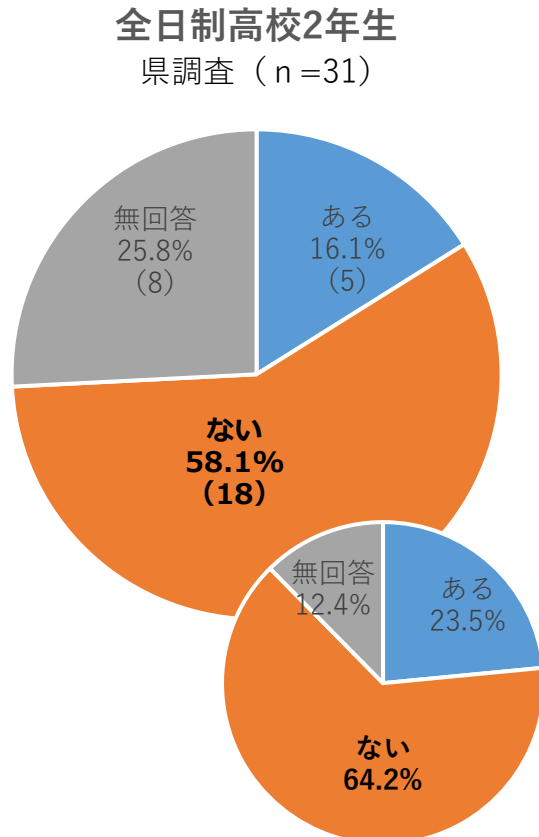
- 家族の世話について相談した経験が「ない」が中学生、高校生とも約6割。
- 相談したことがない理由は「誰かに相談するほどの悩みではない」が一番高い

()内は実数

世話に関する相談経験の有無

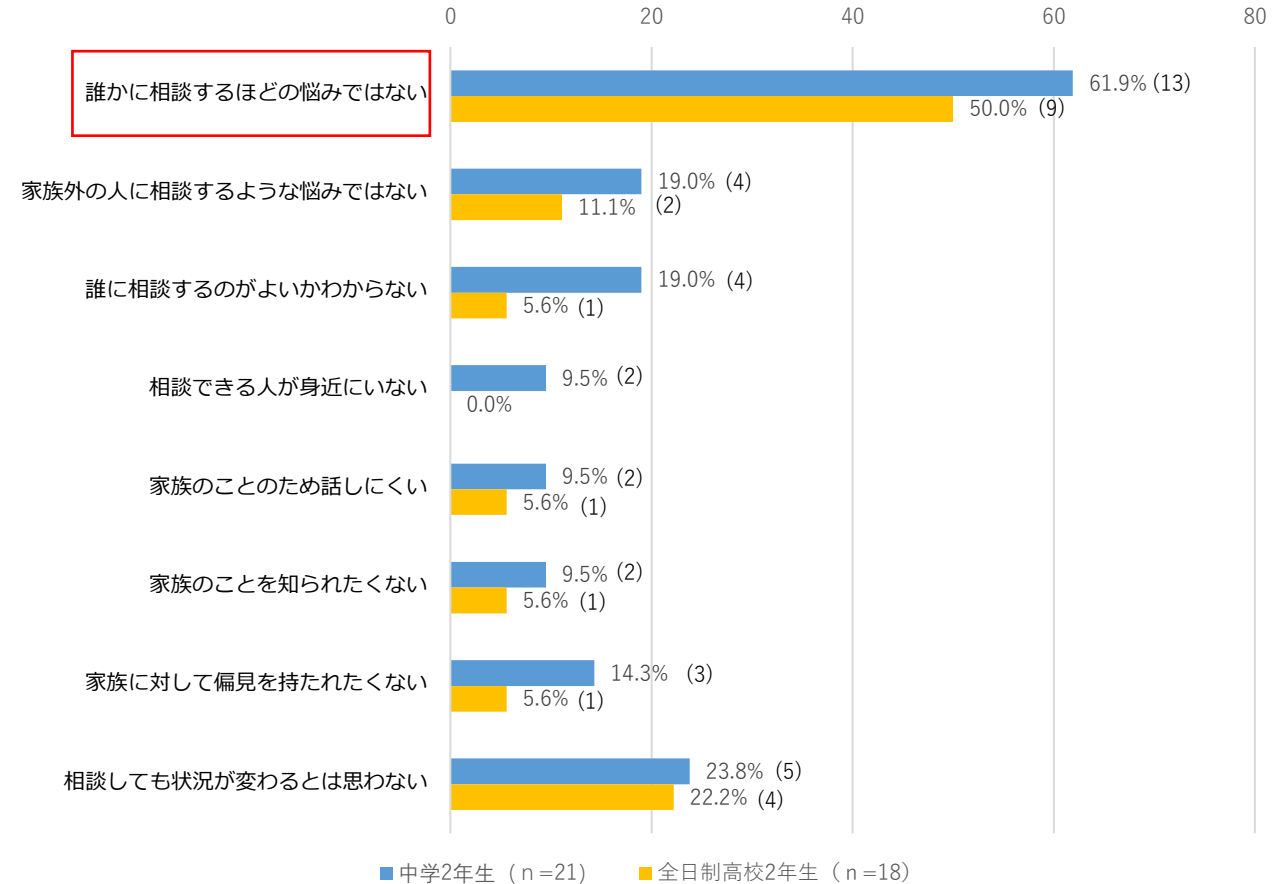


全国調査



全国調査

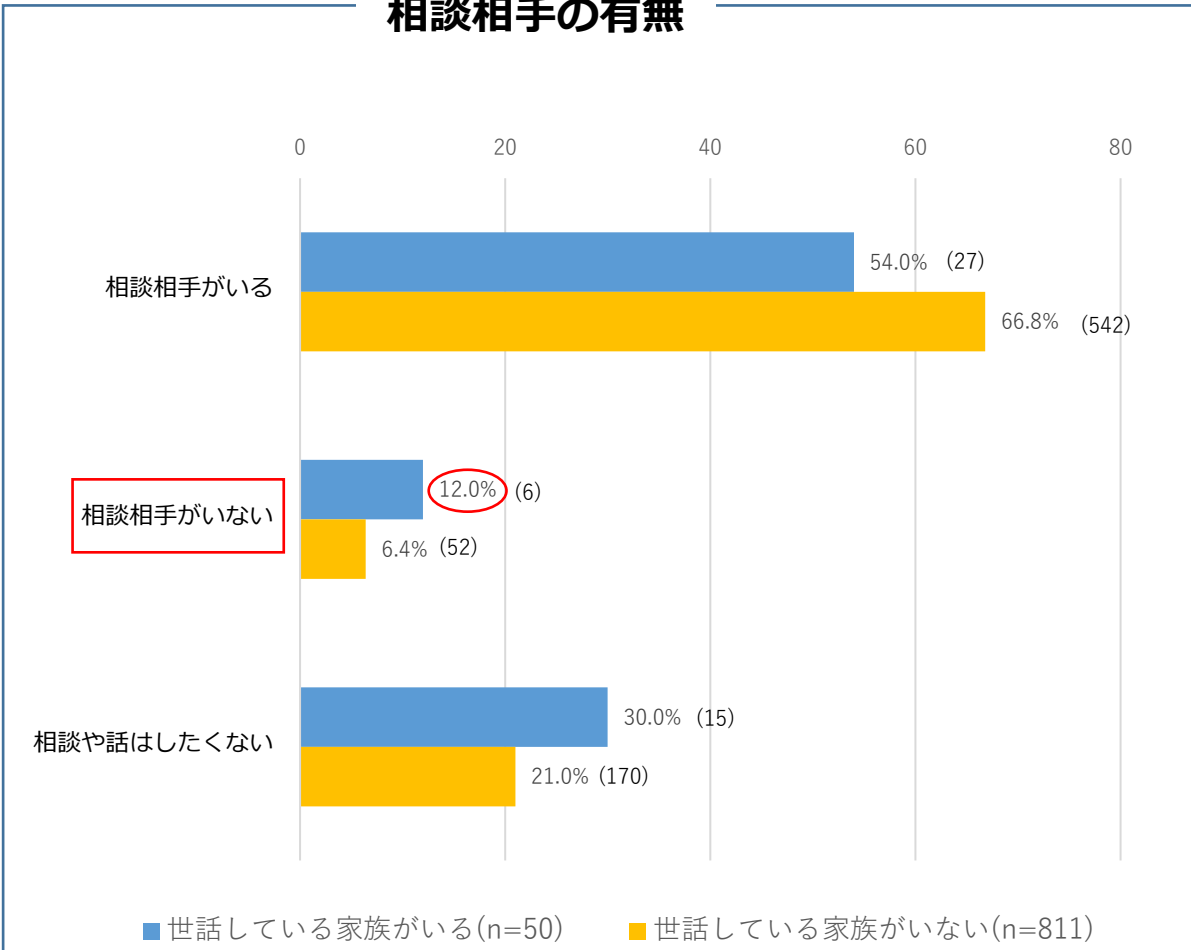
世話に関する相談をしない理由



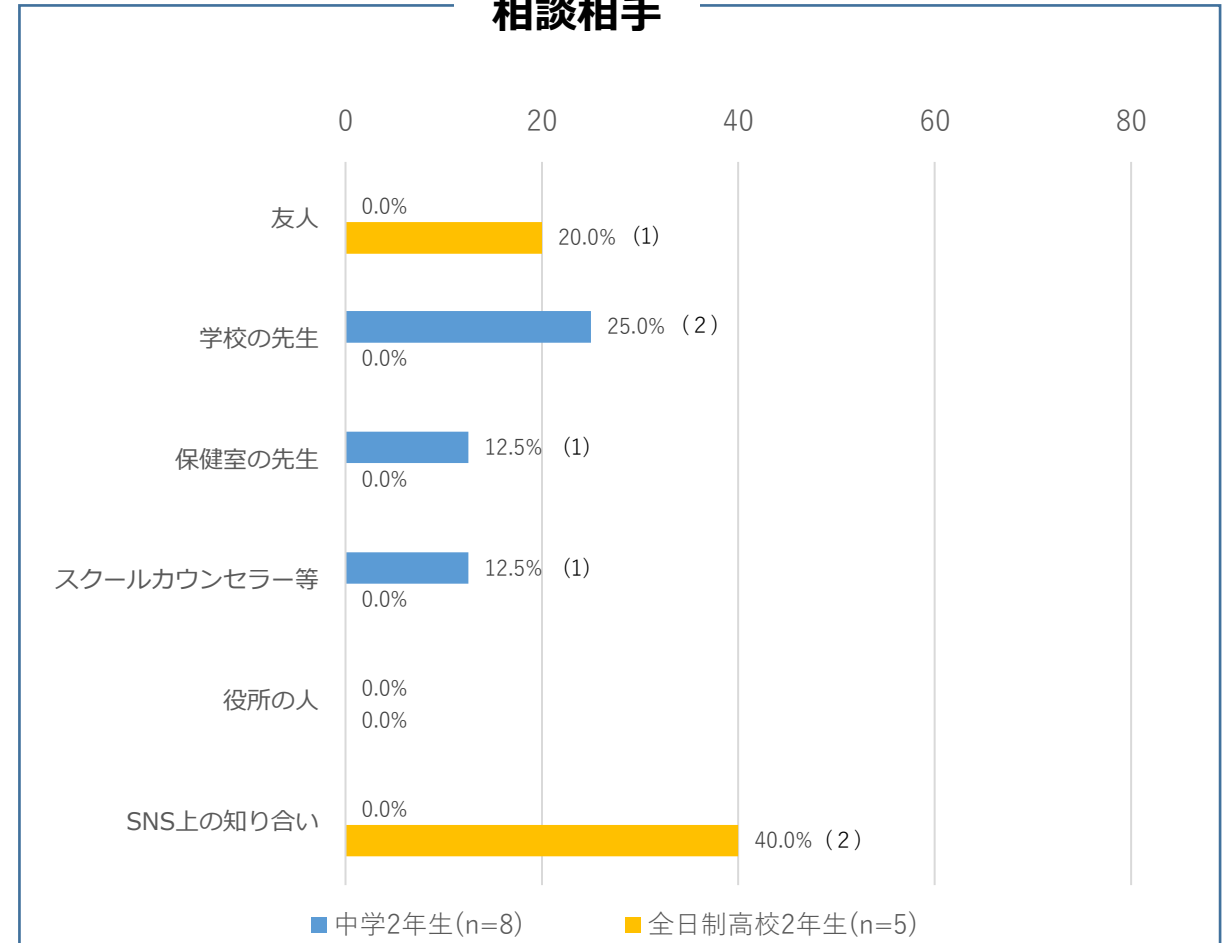
悩みや困りごとの相談相手について

- 世話をしている家族がいる場合、相談相手がいない割合が高い。
- 中学生は「先生、保健室の先生、スクールカウンセラー等」に相談する割合が高い。
- 全日制高校生は、「SNS上の知り合い」、「友人」に相談する割合が高い。
- 中高生いずれも、役所には相談していない。

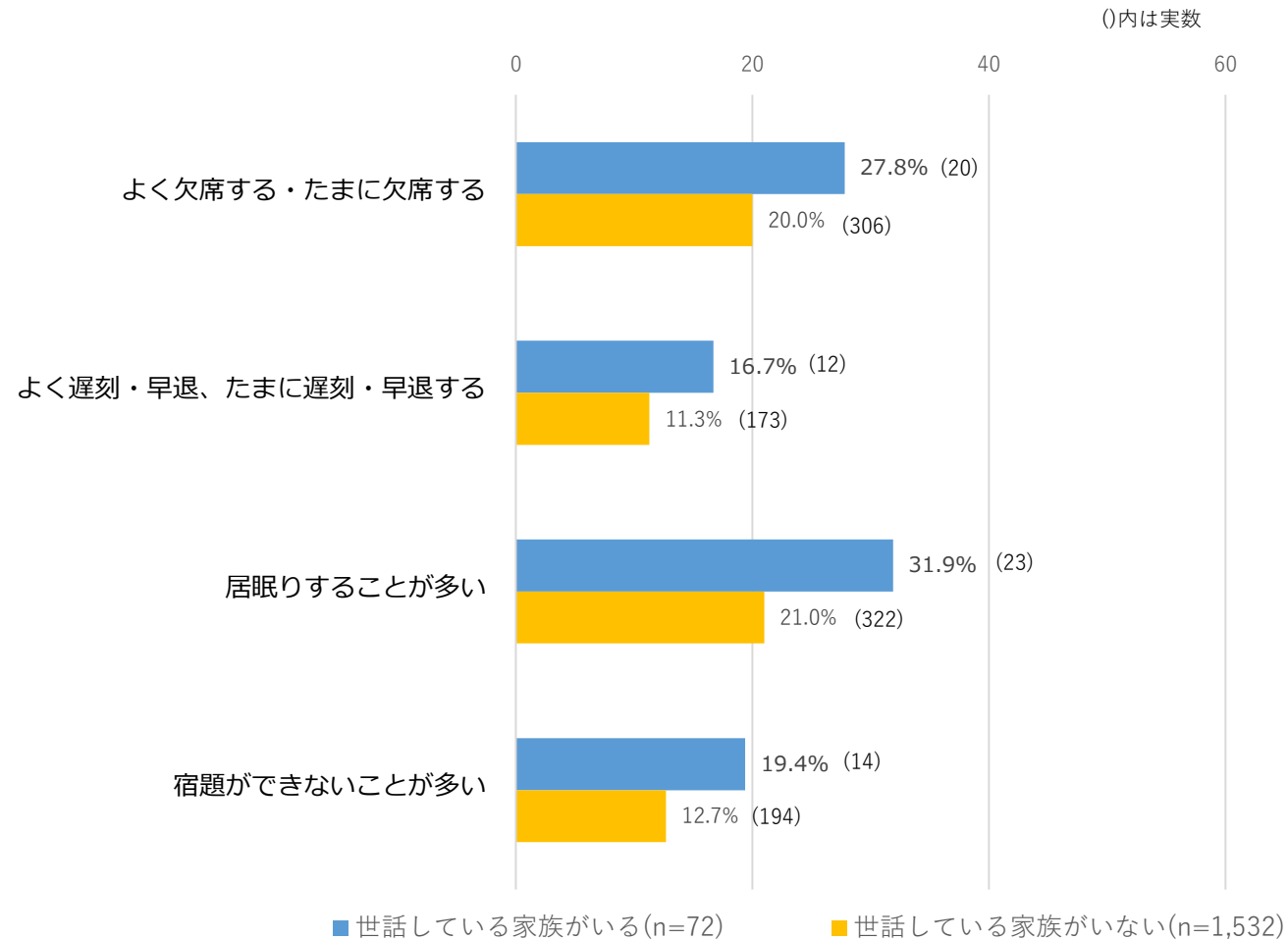
相談相手の有無



相談相手

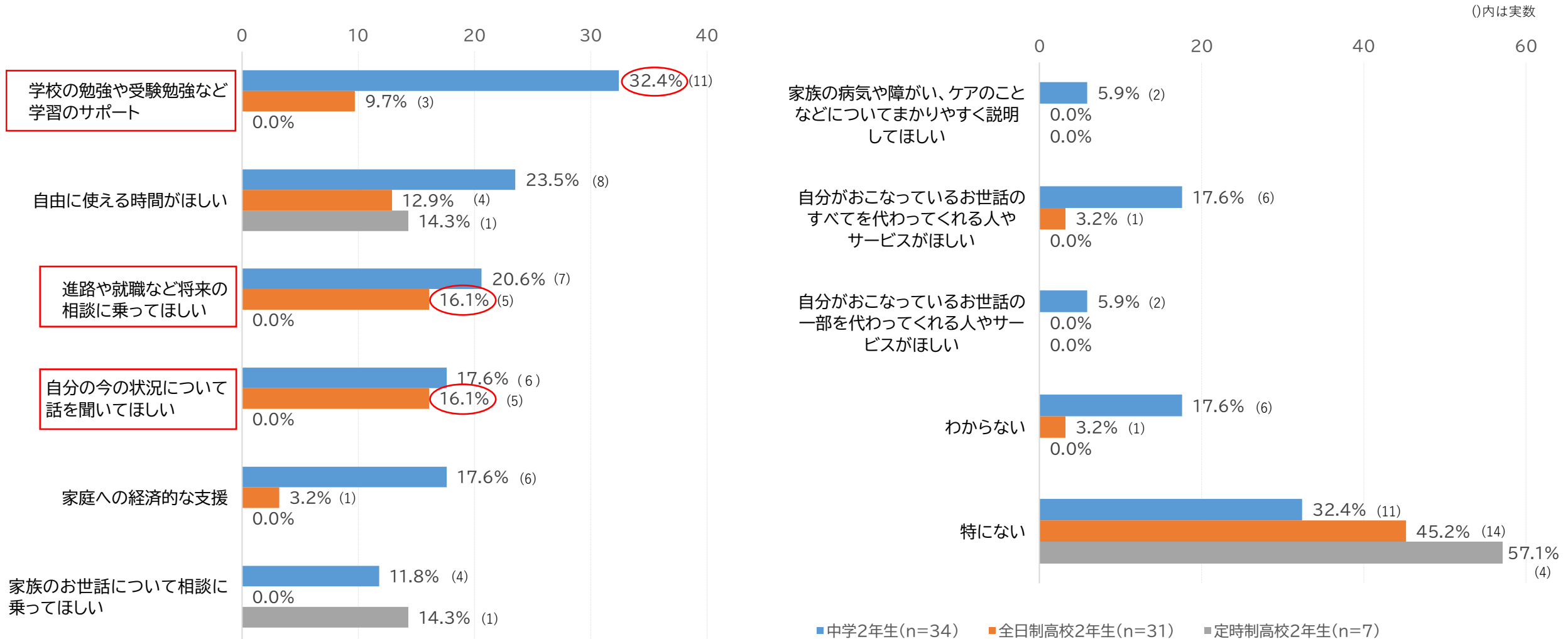


- ・世話している家族がいる生徒は、学校生活での問題を有する割合が高い。

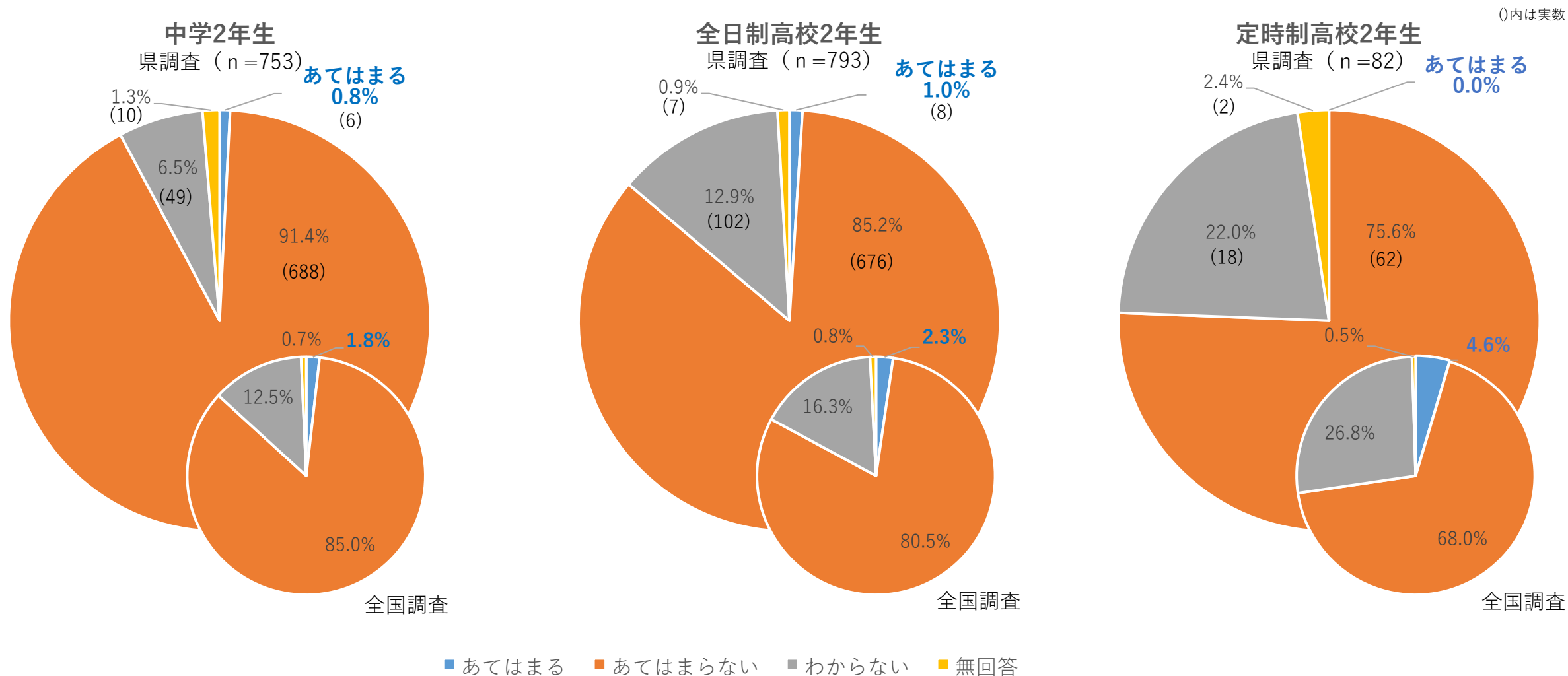


世話をしている家族がいる生徒が 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

- 中学生は「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、全日制高校生は「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」の割合が高い。

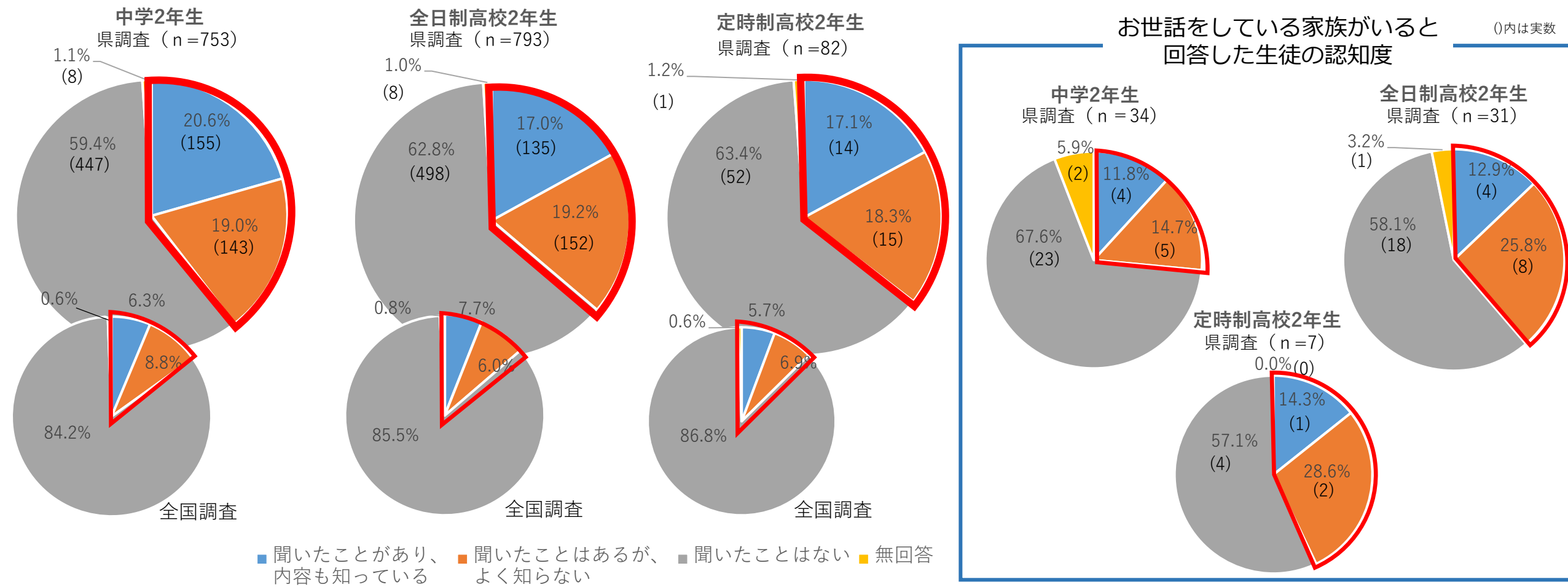


- 中学生、全日制高校生では自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した割合が、約1%となっており、全国調査と比べると低い。



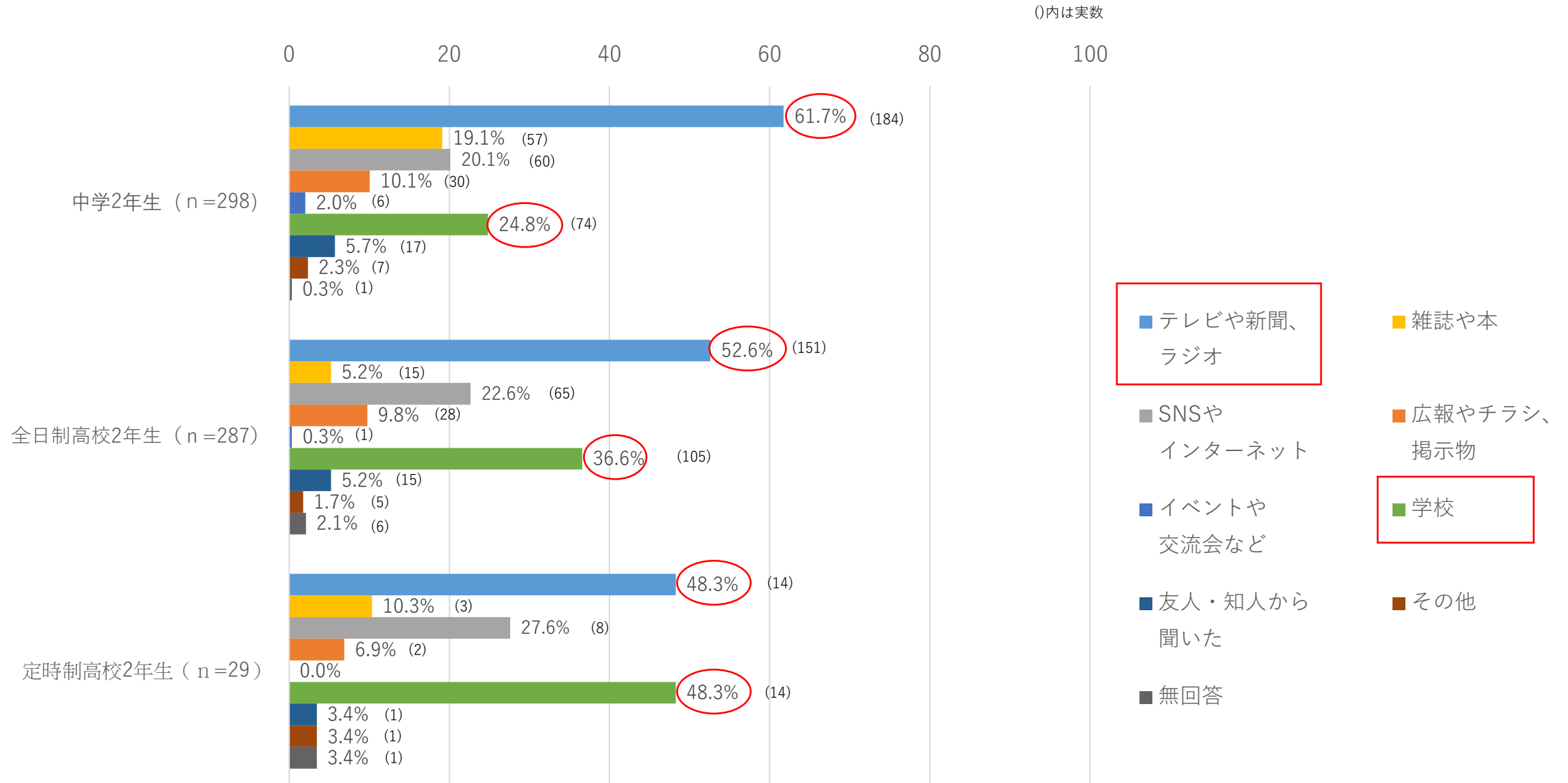
ヤングケアラーの認知度

- ヤングケアラーの認知度は、いずれの学校種でも「聞いたことがあり、内容も知っている」・「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計は約40%（全国調査約15%）と全国調査より高い。
- 家族の中に世話をしている人が「いる」と回答した人のヤングケアラーの認知度は、中学生については、「聞いたことがあり、内容も知っている」・「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計が、県の中学生全体と比べて低い。



ヤングケアラーについて知ったきっかけ

- 「テレビや新聞、ラジオ」、「学校」が高い。

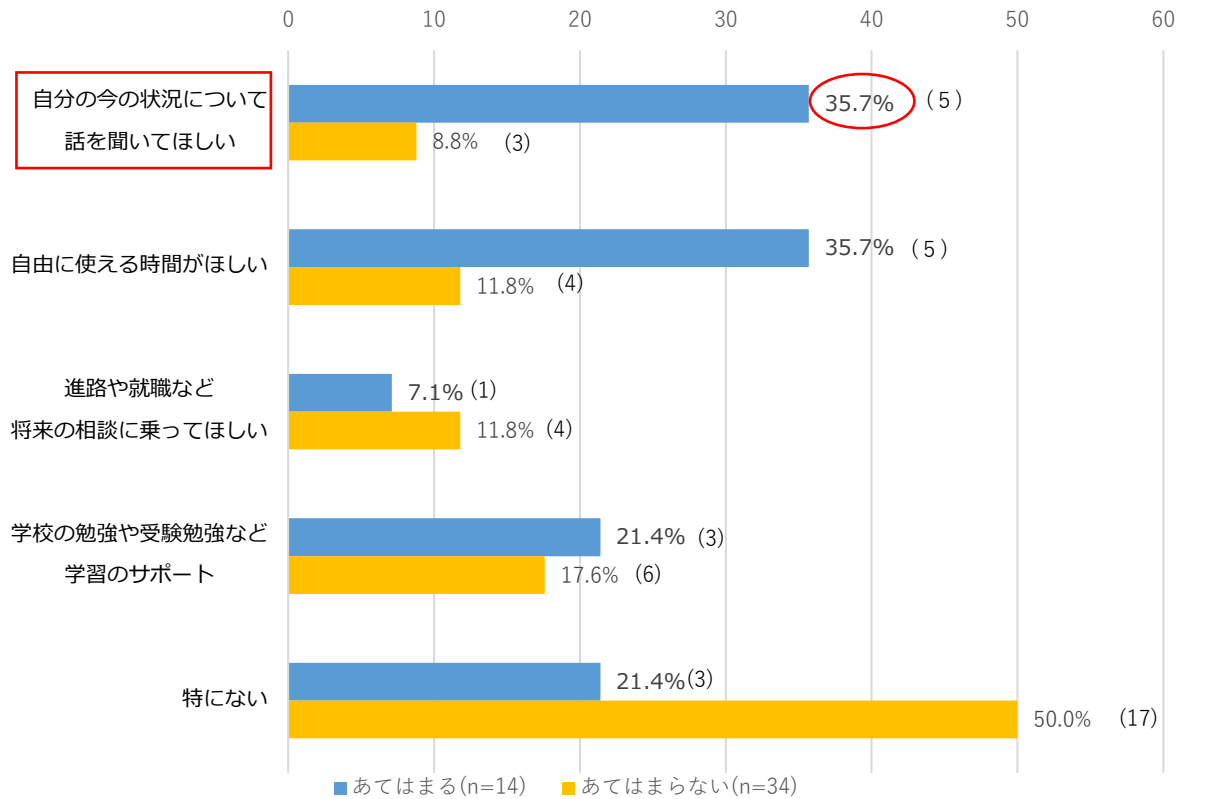


ヤングケアラーにあてはまると回答した生徒が 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

- ・ 自分の今の状況について話を聞いてほしいと回答した割合が全国調査より高い。

県調査

()内は実数



全国調査

